

# 平成29年度 鳥取県原子力防災訓練 (島根原子力発電所対応)

## 訓練報告書

鳥取県危機管理局原子力安全対策課  
平成30年3月27日(火)

### 本年度訓練の特徴

- (新)計画上の会場が使用できない場合に、代替施設として大型商業施設で検査を行うための会場運営手順の確認  
→資機材の機動的な輸送体制の検証
- (新)新たに整備した大型車両用除染システムの運用検証
- (新)パネル式ゲートモニタを用いた避難者の検査
- (新)原子力防災アプリによる情報伝達
- (新)住民避難開始までの屋内退避の実施
- (新)複合災害を想定したコンクリート屋内退避施設への避難及び自衛隊車両による救出の実施
- ドローンによる情報収集
- (新)放射線防護対策施設への燃料補給
- 多様な避難手段の検証(鉄道、航空機等)
- 在宅の要支援者、高齢者施設及び医療機関等の避難計画の検証

## 避難退域時検査訓練(イオンモール日吉津)



## 緊急避難訓練(陸上自衛隊、ドローン)



## 避難行動要支援者避難訓練(入院患者)



## 避難行動要支援者避難訓練(高齢者)



## 原子力防災講座(10/21、27、31)



# 1、原子力防災訓練の結果

### 【訓練目的】

- 原子力緊急時における防災関係機関相互の連携による防災対策の確立及び防災業務関係者の防災技術の習熟を図る。
- 引き続き鳥取県広域住民避難計画等の深化と実効性向上を図る。
- 高齢者施設等で策定した避難計画等の検証を行う。
- 避難支援ポイントの運営方法等の確認・検証を行う。

### 【今年度の主な訓練項目】

- 県が計画する避難退域時検査会場の代替会場として大型商業施設を使用する場合の検査手順等の確認
- 平成28年度に整備した避難退域時検査用資機材(大型テント等)及び今年度新たに整備するゲートモニタを活用した車両確認検査手順等の確認
- 避難退域時検査用資機材の機動的な輸送体制にかかる検証
- 避難行動要支援者の避難手順等の検証
- ドローンを活用した避難実施状況の情報収集手順等の確認

11月19日(日) 38機関、約770名  
(うち住民約310名)

2日間合計 40機関、約950名

11月17日(金) 12機関、約180名

時間	8:30	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00
訓練実施時間	①本部等運営訓練						
	②オフサイトセンター訓練						
	③緊急時モニタリング訓練						

※8月9日(火) 船舶避難訓練、避難所開設訓練を実施  
※10月19日(木) 船舶避難訓練を実施

時間	7:30	8:00	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00
訓練実施時間			④被ばく医療機関の訓練					
			⑤安定ヨウ素剤の調剤、配送訓練					
			⑥住民避難訓練(広報・情報伝達)					
			⑦避難誘導・交通規制・道路表示等訓練					
			⑧高齢者施設の避難訓練					
			⑨入院患者の避難訓練					
			⑩避難退域時検査等訓練					
			⑩西部7町村合同避難所開設運営訓練(13:30~16:30)					

# 多様な避難手段による避難訓練

住民避難訓練は11/19に実施(船舶のみ8/9、10/19)

船舶避難訓練概要

日時:平成29年8月9日(水)7:00~11:00

10月19日(木)7:00~10:00

場所:境港、鳥取港 等

参加機関等:鳥取県、海上自衛隊、海上保安庁、米子市、境港市、境港管理組合 等

【避難退域時検査会場】  
イオンモール日吉津

<訓練の流れ>

○本部等運営、広報・伝達、緊急時モニタリング

- ・対本部会議、島根県知事等とのTV会議、広報・情報伝達等
- ・モニタリング本部の設置、情報伝送等

↓

○住民避難

- ・多様な避難手段(バス、JR、船舶、航空機)の活用
- 【JR】補完的な住民輸送(後藤駅で下車し、日吉津村まではバスで輸送)
- 【船舶(境港→鳥取港)]住民の緊急避難等
- 【航空機(美保基地・米子駐屯地→避難退域時検査会場等)]

○避難行動要支援者避難

- ・多様な避難手段(バス、JR、船舶、航空機)の活用
- 【航空機(米子駐屯地→避難退域時検査会場等)]
- 【航空機(美保基地→鳥取空港)]

↓

○緊急被ばく医療活動

- ・初期・二次被ばく医療活動、避難退域時検査、安定ヨウ素剤配布等 等

弓ヶ浜半島の特性

- ・道路が南北にしかなく避難の際には同方向に避難が集中する。
- ・半島付け根部分に人口が密集しており、人口密集地を通過し避難する
- ・島根県から避難住民が合流することから、万が一の場合大渋滞が予想される。

# 原子力防災訓練実施場所一覧

【松江市】

- ・オフサイトセンター訓練

【湯梨浜町】

- ・緊急時モニタリング訓練

【鳥取市】

- ・本部等運営訓練(初動対応訓練)
- ・広報・情報伝達訓練【道路情報表示訓練を含む。】
- ・避難行動要支援者避難訓練(要支援患者)
- ・県営広域避難所開設訓練營

【日吉津村】

- ・緊急被ばく医療活動訓練(避難退域時検査)
- ・避難支援ポイント設置・運営訓練
- ・車両確認検査等訓練

【米子市・境港市】

- ・緊急時モニタリング訓練
- ・住民避難訓練
- ・避難行動要支援者避難訓練(高齢者、要支援患者、聴覚障がい者・外国人)
- ・学校等の避難訓練
- ・避難誘導、交通規制等措置訓練
- ・緊急被ばく医療活動訓練(初期・二次被ばく医療、安定ヨウ素剤)

【南部町(西部町村会)】

- ・避難所開設訓練
- ・炊き出し訓練

# 原子力防災訓練各個別訓練実施日一覧

区分	7/19 (月)	8/9 (水) 10/19 (木)	11/17 (金)	11/19 (日)	備考
本部等運営訓練（初動対応訓練） 【緊急時通信連絡訓練を含む。】	○		○		7/19は準備訓練
オフサイトセンター訓練			○		
広報・情報伝達訓練【道路情報表示訓練を含む。】			○	○	
緊急時モニタリング訓練			○		
住民避難訓練（在宅要支援者等避難含む）		○ (船舶)		○ (船舶以外)	
避難行動要支援者避難訓練（高齢者、要支援患者）				○	
学校等の避難訓練			○		別日程でも実施
避難誘導・交通規制等措置訓練			○	○	
避難支援ポイント設置・運営訓練				○	
緊急被ばく医療活動訓練（初期・二次被ばく医療、避難退域時検査、安定ヨウ素剤）				○	
車両確認検査等訓練				○	
広域避難所開設訓練		○（県営8/9）		○	
原子力防災講座等	【米子市】10/21（土）		【境港市】10/27（金）、10/31（火）		

## 2、各訓練実施結果 <資料1>

- 1 本部等運営訓練（初動対応訓練）・オフサイトセンター訓練
- 2 避難退域時検査会場の運営等
- 3 広報・情報伝達訓練
- 4 緊急時モニタリング訓練
- 5 住民避難訓練（在宅要支援者等避難を含む）
- 6 避難行動要支援者避難訓練（高齢者、入院患者）
- 7 学校等の避難訓練
- 8 避難誘導、交通規制等措置訓練
- 9 避難支援ポイント設置・運営訓練
- 10 緊急被ばく医療活動訓練（初期・二次被ばく医療、避難退域時検査、安定ヨウ素剤）
- 11 車両確認検査等訓練
- 12 県営広域避難所開設訓練
- 13 原子力防災講座等
- 14 西部7町村合同避難所開設運営訓練
- 15 米子市実施訓練
- 16 境港市実施訓練

### 3、避難訓練参加住民アンケート結果

平成29年11月19日（日）に実施した避難訓練へ参加した住民に対してアンケートを実施。（回答総数130名・参加住民の54%）  
 （回答者の男女比は概ね7：3で、60歳代以上が約6割を占めている）

#### <アンケートとりまとめ結果>

- ・回答した住民の約9割が訓練参加により原子力防災への理解が深まったと回答。（昨年度：約9割）  
 →防護措置や避難の流れを実際に訓練で体験することにより理解が深まったものと考えられる。今後も引き続き訓練を実施する。
- ・緊急速報メールは約8割が受信し、内容を伝達することができた。（昨年度：約7割）  
 →情報伝達手段としての緊急速報メールの有用性を確認。
- ・災害時には自家用車で6割が避難する一方で、段階的避難に関する認知度の向上が課題。  
 （昨年度：約7割が自家用車避難と回答）  
 →今後も機会を捉えた継続的な周知に努める。

アンケート結果		評価・対策等
Q 1	これまでに原子力防災訓練に参加した経験はありますか？	
	<p>2回 11% 5回以上 1% 3回 4% 無記入 1% 初めて 83%</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・参加者の8割超が訓練に初めて参加した住民であり、原子力防災について認識を深めていただく機会となった。</li> <li>→引き続き広い世代の参加を含めて訓練を継続したい。</li> </ul>
Q 2	緊急速報メールは受信できましたか。またメールに気がつきませんでしたか。	
	<p>無記入 12% 受信できず 10% 受信できたがメールに気がつかず 4% 受信できメールに気がついた 74%</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・概ね8割の住民がメールを受信できたと回答。</li> <li>・受信できなかった住民については、機種への未対応、メールの設定などが原因としてあげられた。</li> <li>→メールの受信設定についてホームページや他手段による周知も検討。</li> </ul>
Q 3	緊急速報メールの内容はわかりましたか。	
	<p>わからなかった 2% 無記入 6% わかった 92%</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度は屋内退避の実施についても追記したが9割超の住民に内容が理解された。</li> <li>→引き続き効果的な利用によりわかりやすい表現を検討したい。</li> </ul>

アンケート結果		評価・対策等
Q 4	訓練を通じて原子力防災に関する理解が深まりましたか？	
<p>深まった 42% 少し深まった 45% あまり深まらなかった 4% 深まらなかった 4% 無記入 5%</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・約9割が訓練を通じて原子力防災に関する理解が深まった、少し深まったと回答。</li> <li>・原子力防災について考える契機となったという意見が多く見られた。</li> </ul> <p>→引き続き訓練を継続していく。</p>
Q 5	今回の訓練で実施した避難行動の改善点の有無。	
<p>ない 42% ある 29% 無記入 29%</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・4割が改善点なし、3割が改善点ありと回答。</li> <li>・防災無線や避難指示に係る説明が聞き取りづらかったとの意見が寄せられた他、外国人住民や聴覚障害者への情報伝達に課題があった。</li> </ul> <p>→関係機関と情報共有を図り、ハンドマイクなど資機材の適切な使用や平易な言葉、手話による情報伝達の実施を行うなど改善を進める。</p>
Q 6	避難について知っておきたいこと、知りたいことは何ですか。	
<p>情報を知る方法 22% 家族と連絡を取る方法 16% 避難の方法 25% 被ばくを避ける方法 14% 避難後の生活 21%</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報の入手方法や家族との連絡手段、実際の避難方法について知りたいという意見が6割を占めた。</li> </ul> <p>→一連の流れについて様々な機会・手段により継続的に周知する必要がある。</p>

アンケート結果		評価・対策等
Q 7	段階的避難という言葉聞いたことがありますか。	
<p>聞いたことがある 46% 聞いたことがない 45% 無記入 9%</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・約半数が段階的避難について認識。</li> </ul> <p>→認知度の一層の向上に向けて今後も周知に取り組む。</p>
Q 8	お住まいの地域の段階的避難の区分はご存じですか。	
<p>知っている 33% 知らない 57% 無記入 10%</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・半数が避難区分を知らないと回答。</li> </ul> <p>→実際の避難区分についても様々な機会を捉えて継続した周知を実施して行く必要がある。</p>
Q 9	原子力災害時の避難手段として何を使用しますか。	
<p>自家用車 62% バス 18% JR 7% 無記入 9% その他 4%</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・6割が自家用車避難を選択。</li> </ul> <p>→バスやJRでの避難をされる住民も25%あり、引き続き多様な避難手段の検証を行っていく必要がある。</p>